

昭和 30 年～45 年
統計から見た酒田市の農業
(世界農林業センサス)

酒田市企画調整課

は　じ　め　に

最近の農業をとりまく諸情勢は一段と険しさを増し、農業問題の解決は容易ならないものがある。30年代前半には農家の二三男対策が構じられていたのが、35年を境にして農村から大量の若い労働力が都会に流出し、一転して農業労働力の不足が訴えられるようになった。また食糧の需要も経済の高度成長によって質的变化を来し、野菜、果実、畜産物等の需要が増加し、食糧需要の高級化、多様化が急速に進んでいる。農業生産の中心である米は、消費の後退もあつて、生産の過剰を来し、米価据置から生産調整がはかられるという、かつてない異常な事態に追い込まれている。

農業は経済の発展と密接な関係を持ち、経済発展の速度が速いほど急激な変化を要請され、同時に農業技術の進歩もまた農業の変化を必然化する。農業の大型機械化は農業労働を大巾に軽減し、生産力の増強は価格に影響を及ぼし、合理化による一層の経費の節減を要求してくる。その過程で多くの農家、多くの農業従事者が農業から離れていくことになる。ここ10数年の農業の動きは農業労働力の減少を機械化で補ったという印象が強いが、農業発展の必然性が短時間のうちに急速に進んだ結果である。

1970年世界農林業センサスの結果表が公表されたのを機会に、本市の農業を時系列的に把え、本市農業の動きを明らかにする一助とし、本市農業の発展の一助とするため、不十分ではあるが公表することにしたものである。

公表にあたって、本統計書の基本となった農林業センサスの調査員をはじめ統計表の作成に力のあつた人々に深く感謝申しあげるとともに、皆さんのご批判を仰ぎ今後の農業統計の向上を図りたいと思います。

昭和46年8月

目 次

1. 統計表の見方	4
(1) 統計表の出所	4
(2) 調査の仕組	4
(3) 用語の説明	4
2. 農 家 数	6
(1) 年次別農家数	6
(2) 経営耕地規模別農家数	6
(3) 専・兼業別農家数	8
3. 農家人口・就業構造	12
(1) 年次別農家人口	12
(2) 年令別農家人口	12
(3) 世帯員数別農家数	13
(4) 就業状態別世帯員数	15
(5) 農業従事者数	22
4. 経 営 土 地	27
5. 農 作 物	28
(1) 農作物作付面積	28
(2) 主要農作物の10アール当り収量	30
6. 家 畜	32
(1) 乳 用 牛	32
(2) 役 肉 用 牛	33
(3) 豚	34
(4) け ち と り	34
(5) その他の家畜	35

7. 農業用機械	36
8. 農 家 経 済	37
(1) 農業粗生産額	38
(2) 農 家 所 得	39
(3) 10アール当り米生産費	40
附 表	41
附表 1. 旧市村別経営耕地規模別農家数	41
附表 2. 旧市村別専兼業別農家数	42
附表 3. 旧市村別兼業種類別農家数	42
附表 4. 旧市村別世帯員数と自家農業従事者数	42
附表 5. 旧市村別経営耕地面積	43
附表 6. 旧市村別家畜飼養頭羽数	43
附表 7. 米品種別作付面積	44
附表 8. 旧市村別米10アール当り収量	45
附表 9. 旧市村別水稻種子更新率	45
附表10. 農地転用面積	46
附表11. 田畑売買価格	47
附表12. 旧市村別人口	48
附表13. 産業分類別就業人口	49
附表14. 市内純生産	50

1. 統計表の見方

統計調査には多くの約束事があり、用語もその約束事によって一般の使い方と異なる場合もしばしばある。同事に約束事それ自体が調査の目的の相違や時間的な経過によって、相違や変更修正が生じてくる。統計表を正しく理解してもらうために、最初に調査のしくみや若干の用語の説明を加えておきたいと思う。

(1) 統計表の出所

特にことわりのない場合は、統計数値は、下記のものから使用した。

- 30年 臨時農業基本調査
- 35.40.45年 世界農林業センサス
- 41~44年 山形県農業基本調査

(2) 調査のしくみ

上記の調査は市内を201の調査区に分割し、各年とも2月1日に調査されたものであり、調査員のききとりによる属人全数調査である。

上記以外以外の資料はそれぞれ異なるが、最も多く使用している山形農林水産統計年報は属地主義による調査であり、抽出調査が多い。

(3) 用語の説明

(1) 農業

耕種、養畜、養蚕の事業をいう。

(2) 農家

経営耕地面積10アール以上の世帯と10アール未満でも

- 30年、35年 過去1年間の農産物販売額が2万円以上の世帯
- 40~44年 * 3万円 *
- 45年 * 5万円 *

をいう。

(3) 例外規定農家

経営耕地面積が10アール未満で、農産物販売額が前記規定以上のもの。

(4) 耕地

田（畦畔を含む）樹園地（果樹園、桑園、その他〜こうぞ、みつまた、こりやなぎ）普通畑、その他畑（焼畑、切替畑、堤外地などの不定的な畑、牧草畑などの畑が一括計上）

(5) 専業農家

自家農業以外の仕事で収入を得ている世帯員が1人もいない農家

(6) 兼業農家

自家農業以外の仕事で収入を得ている人が1人以上いる農家

(7) 第1種兼業、第2種兼業

農業と農業以外の収入を比較して、農業収入が多い農家が第1種兼業、兼業収入が多い農家が第2種兼業である。

2. 農 家 数

(1) 年次別農家数

昭和45年2月1日の本市の農家数は5,595戸で、10年間に2,98戸5.1%減少しているが、全国ではこの期間に11.8%と倍以上の減少を示している。減少傾向は、全国的な動きと同様、40年から45年にかけて鈍化しているが、県では逆に増加の傾向にある。

2-1表 年次別農家数

単位 戸・%

		酒 田 市	山 形 県	全 国
実 数	30	5,768	115,039	6,075,917
	35	5,893	117,146	6,056,630
	40	5,701	115,215	5,664,763
	45	5,595	112,347	5,341,800
	35/30	100.2	101.8	99.7
指 数	40/35	96.2	98.4	93.5
	45/40	98.1	97.5	94.3
	45/35	94.9	95.9	88.2

(2) 経営耕地規模別農家数

県全体では、40～45年までの5年間に2haを分岐点として上の階層は増加し、下の階層は減少しているといわれるが、右表からはそうし

2-2表 経営耕地規模別農家数

単位 戸

例外 規定	0.1 ~ 0.3	0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 1.5	1.5 ~ 2.0	2.0 ~ 2.5	2.5 ~ 3.0	3.0ha 以上	計	
30	26	671	582	996	660	578	572	513	1,170	5,768
35	67	677	638	1,014	655	564	582	508	1,188	5,893
40	33	634	626	996	633	563	575	515	1,126	5,701
41	32	648	625	984	641	571	554	522	1,117	5,694
42	24	639	624	1,013	626	576	556	526	1,080	5,664
43	23	657	627	1,017	584	571	562	544	1,065	5,650
44	23	683	619	974	613	548	575	532	1,083	5,650
45	23	629	635	972	588	572	539	514	1,123	5,595

たはっきりした傾向はみられない。1-3表は3ha以上層を起点として、増加(減少)が右側の階層の上昇(右側の階層への下降)によるものとし、他は移動がないと仮定した場合の期待値との

差である。階層の移動が

1階層づつ行なわれるものとすると、1-3表は三つの段階を示している。

最初の30~35年の5年間では、開田や開畑があり、他方で分家等による農家の新設もかなりあったため、どの階層も増加し、特に0.1~0.3haの階層の増加が顕著であった。

35~42年までは、農業労働力が大量に流出し、それと関連して労賃が急上昇したため、一方的に下降した。最後の44年、45年では、刈取機や田植機の実用化を反映したのか、両極分解に転じたようにみえる。

下表は最近5年間の所有権移転による農地の増減を示したものであるが、農家の階層分化の方向を裏づけている。特にここ数年は3ha以上層への農地の集中がめだっている。

2-3表 経営耕地規模別期待農家数との差 単位 戸

	0.1 ~ 0.3	0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 1.5	1.5 ~ 2.0	2.0 ~ 2.5	2.5 ~ 3.0	3.0 ha 以上
35	80	22	22	4	9	23	13	18
40	△84	△115	△103	△85	△63	△62	△55	△62
41	△6	△20	△18	△7	△15	△23	△2	△9
42	△22	△13	△12	△41	△26	△31	△33	△37
43	△13	△31	△34	△38	4	9	△3	△15
44	0	△26	△18	25	△4	19	6	18
45	△55	3	△17	△15	10	△14	22	40

2-4表 最近5年間の所有権移転による農地の増減

単位 a

	0.5ha 未 満	0.5~ 1.0	1.0~ 1.5	1.5~ 2.0	2.0~ 2.5	2.5~ 3.0	3.0ha 以 上	合計移動 面積
41	410	△698	△467	282	21	469	△17	9,571
42	△398	△552	△197	43	213	226	665	5,817
43	△345	△554	38	△5	350	△7	1,223	7,954
44	△519	△470	△362	△216	232	342	993	7,865
45	△496	△550	34	△191	218	△143	1,128	7,384
計	△1,348	△2,824	△954	△87	334	887	3,992	38,591

(3) 専業業別農家数

2-5表 年次別専業業別農家数

単位戸・%

	酒 田						山 形 県			全 国		
	実 数			指 数			(指数)			(指数)		
	専業農家	第1種兼業農家	第2種兼業農家	専業農家	第1種兼業農家	第2種兼業農家	専業農家	第1種兼業農家	第2種兼業農家	専業農家	第1種兼業農家	第2種兼業農家
30	2686	1506	1576	46.1	26.1	27.3	4.8	37.1	21.1	34.9	37.6	27.5
35	2633	1510	1750	44.7	25.6	29.7	3.9	36.1	24.0	34.3	33.6	32.1
40	1684	1919	2098	29.5	33.7	36.8	2.0	4.8	3.0	2.5	36.7	41.8
45	982	2371	2242	17.6	42.4	40.0	1.0	5.9	3.7	1.5	33.7	50.7

30年、35年では半数近くが専業農家であり、兼業化の進行は緩やかであったが、続く40年、45年の各5年間は経済の高度成長下において、兼業化が急速に進み、45年には8割以上が兼業農家になっている。また最近の5年間は第1種兼業農家の増加が著しい。

これを経営耕地規模との関係でみると、当然のことではあるが規模の小さい農家は兼業化が進んでいる。

2-6表 経営耕地規模別専業業別農家数

単位 戸

	専業農家			第1種兼業農家			第2種兼業農家		
	35	40	45	35	40	45	35	40	45
例外規定	7	4	5	5	6	1	55	23	17
0.1~0.3	15	10	6	23	12	9	639	612	614
0.3~0.5	29	9	8	65	17	15	544	600	612
0.5~1.0	171	62	39	429	251	180	414	683	753
1.0~1.5	257	113	46	329	377	349	69	143	193
1.5~2.0	337	118	92	215	355	449	12	28	31
2.0~2.5	439	273	150	131	295	377	12	7	12
2.5~3.0	396	265	151	110	248	359	2	2	4
30ha以上	982	768	485	203	358	632	3		6
計	2633	1,684	982	1,510	1,919	2,371	1,750	2,098	2,242

45年では1ha未満は第2種兼業農家が圧倒的に多いが、1.0~1.5haになると第1種兼業農家が多くなり、約60%を占め、第2種兼業農家が33%で専業農家は8%にすぎなくなっている。3ha以上でも第1種兼業農家が57%を占めるに至り、専業農家は43%に低下している。35年には、1.5~2.0haで専業農家が約6割、3.0ha以上では8割以上が専業農家であったのと比較すると規模の大きい農家まで兼業化が急速に浸透してきたのがわかる。

次に兼業の種類別にみると、第1種兼業農家は、職員は35年から40年にかけて若干増加しているが、40~45年には逆にかなり減少している。これは、1つは小規模農家の第2種兼業農家への移行による減少が考えられ、もう一つは規模の大きい農家の命令者の退職による減少が考えられる。工員、店員は、40年は35年より減少している。これはそれまでの就職難の時期に農村に滞留していた農家の子弟が景気の上昇によって急速に流出していった結果と考えられる。40~45年の工員、店員の増加は、人夫、日雇いの増加とともに、農家の世帯主やあつぎ等の将来も農村に留まる人の兼業化によるものと思われる。社会的に大きな問題となっている出稼ぎは、35~40年は217戸と増加が大きかったが、40~45年には23戸の増加にとどまっており3ha以上を除いて比重は低くなっている。

以上のことを経営規模との関係でみると、この10年間に大きく変っている。35年では職員、工員、店員等の安定的な恒常的勤務は、規模の大きい農家の比重が高く、逆に人夫・日雇や出稼ぎ等の不安定な兼業が規模の小さな農家の比重が高かった。しかし45年にはこれが逆になっている。一方で人夫、日雇の恒常的勤務への移行があり、他方で年雇や臨時雇いの激減による規模の大きい農家の自家労働への依存強化があったことによってこうした結果が生じたものと思われる。農業とりわけ稲作の機械化による大巾な省力化や委託作業の増加もこうした傾向を助長したものと考えられる。

2-7表 兼業種類別農家数 (第1種兼業農家)

単位 戸・%

	総数			やとわれ兼業												自営兼業		
				職員			工員・店員			出稼ぎ			人夫日雇					
	35	40	45	35	40	45	35	40	45	35	40	45	35	40	45			
例規	5	6	1		3	1	3	2						1		1		
0.1~0.3	23	12	9	3	1		7	2	4		1	1	8	6	1	5	2	3
0.3~0.5	65	17	15	7	2	3	17	5	2	2	1	3	28	6	6	11	3	1
0.5~1.0	429	251	180	37	36	25	102	68	53	36	42	25	163	86	65	91	19	12
1.0~1.5	329	377	349	31	43	31	106	89	101	19	66	57	79	151	137	94	28	23
1.5~2.0	215	355	449	54	52	51	53	63	112	11	70	52	37	150	204	60	20	30
2.0~2.5	131	295	377	31	48	34	47	44	92	8	48	55	17	137	176	28	18	20
2.5~3.0	110	248	359	39	36	35	38	46	74	3	36	47	11	117	184	19	13	19
3.0ha以上	203	358	632	76	78	59	68	62	114	6	38	85	13	163	338	40	17	36
計	1,510	1,919	2,371	278	299	239	441	381	552	85	302	325	357	816	1,111	349	121	144
指	例規	100	100	100	500	1000	600	333						200		200	167	
0.1~0.3	100	100	100	11.1	8.3		30.4	16.7	44.5		8.3	11.1	34.8	50.0	11.1	21.7	16.7	33.3
0.3~0.5	100	100	100	10.8	11.8	20.0	26.2	29.4	13.3	3.0	5.9	20.0	43.1	35.3	40.0	16.9	17.6	6.7
0.5~1.0	100	100	100	8.6	14.3	13.9	23.8	27.1	29.4	8.4	16.7	13.9	38.0	34.3	36.1	21.2	7.6	6.7
1.0~1.5	100	100	100	9.4	11.4	8.9	32.2	23.0	28.9	5.8	17.5	16.3	24.0	40.1	39.3	28.6	7.4	6.6
1.5~2.0	100	100	100	25.1	14.6	11.4	24.7	17.8	24.9	5.1	19.7	11.6	17.2	42.3	45.4	27.9	5.6	6.7
2.0~2.5	100	100	100	23.7	16.3	9.0	35.9	14.9	24.4	6.1	16.3	14.6	19.0	46.4	46.7	21.3	6.1	5.3
2.5~3.0	100	100	100	35.4	14.5	9.7	34.5	18.5	20.7	2.7	14.5	13.1	10.0	47.2	51.2	17.3	5.3	5.3
3.0ha以上	100	100	100	37.4	21.8	9.3	33.5	17.3	17.4	3.0	10.6	13.4	6.5	45.5	54.1	19.7	4.8	5.8
計	100	100	100	18.4	15.6	10.1	29.2	19.9	23.3	5.6	15.7	13.7	23.6	42.5	46.8	23.1	6.3	6.1

2-8表 兼業種類別農家数 (第2種兼業農家)

単位 戸・%

	総数			やとわれ兼業												自営兼業			
				職員			工員・店員			出稼ぎ			人夫日雇						
	35	40	45	35	40	45	30	40	45	35	40	45	35	40	45				
例規	55	23	17	8	10	5	26	6	6			3		4	2	1	17	2	5
0.1~0.3	639	612	614	95	113	80	147	157	200	47	142	54	113	83	108	237	117	172	
0.3~0.5	544	600	612	77	137	81	137	151	206	40	122	45	86	93	106	204	97	174	
0.5~1.0	414	683	753	71	144	133	105	194	279	41	141	49	58	121	174	139	83	118	
1.0~1.5	69	143	193	14	31	36	10	27	71	9	35	6	5	20	33	31	30	47	
1.5~2.0	12	28	31	4	5	8		1	8		7		1	5	8	7	10	7	
2.0~2.5	12	7	12	3	2	6	1		2				1	1		7	5	2	
2.5~3.0	2	2	4		1	1									3	2	1		
3.0ha以上	3		6				1								1	2		5	
計	1,750	2,098	2,242	272	443	350	427	536	772	137	450	155	268	324	435	646	345	530	
指	例規	100	100	100	14.5	43.5	29.4	47.3	26.1	35.3		13.0		7.3	8.7	5.9	30.9	8.7	29.4
0.1~0.3	100	100	100	14.9	18.5	13.0	23.0	25.7	32.6	7.4	23.2	8.8	17.7	13.6	17.6	37.0	19.0	28.0	
0.3~0.5	100	100	100	14.2	22.8	13.2	25.2	25.2	33.7	7.3	20.3	7.4	15.8	15.5	17.3	37.5	16.2	28.4	
0.5~1.0	100	100	100	17.1	21.1	17.7	25.4	28.4	37.0	9.9	20.6	6.5	14.0	17.7	23.1	33.6	12.2	15.7	
1.0~1.5	100	100	100	20.3	21.7	18.6	14.5	18.9	36.8	13.0	24.5	3.1	7.2	14.0	17.1	45.0	20.9	24.4	
1.5~2.0	100	100	100	33.3	17.9	25.8		36	25.8		25.0		8.3	17.8	25.8	58.4	35.7	23.6	
2.0~2.5	100	100	100	25.0	28.6	50.0	8.3		16.7				8.3	8.3		8.3	58.4	71.4	16.7
2.5~3.0	100	100	100		50.0	25.0									75.0	100.0	50.0		
3.0ha以上	100	100	100				33.3								16.7	66.7		83.3	
計	100	100	100	15.4	21.1	15.6	24.5	25.5	34.4	7.8	21.5	6.9	15.4	15.4	19.4	36.9	16.5	23.7	

第2種兼業農家では、上層農家が少なく、こうした関係は明瞭でないが、全体としてみれば、安定的な恒常的勤務者の比率を高めながら、農家数も増加している。また人夫・日雇も35~40年、40~45年とも増加しているが、40~45年は、出稼ぎがそれ以上に減少し、安定的な恒常的勤務が増加している。

3. 農家人口・就業構造

3-2表 年令別世帯員数

単位人・%

(1) 年次別農家人口

3-1表 年次別農家人口

単位人・%

	実数			指数			1世帯平均人数		
	酒田市	山形県	全国	酒田市	山形県	全国	酒田市	山形県	全国
	30	39,163	781,748	364,372,90	1036	1066	1059	68	68
35	37,802	733,279	344,111,87	1000	1000	1000	64	63	57
40	33,254	659,192	300,832,52	880	899	874	58	57	53
41	32,863	646,098		869	881		58	56	
42	31,987	630,975		846	860		56	55	
43	31,527	619,315		834	845		56	54	
44	31,038	606,605		821	827		55	54	
45	30,186	592,207	262,800,00	799	807	764	54	53	49

		15才以下	16~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65才以上	計
		実数	男	35 6,711	1,292	2,865	2,349	1,750	1,617	670
40 5,259	1,285		1,917	2,362	1,736	1,560	677	1,079	15,875	
45 3,702	1,416		1,979	1,979	2,052	1,459	667	1,228	14,482	
指数	女	35 6,493	1,404	3,013	2,510	2,092	1,821	758	1,463	19,554
		40 5,298	1,135	2,141	2,492	2,046	1,841	832	1,580	17,365
		45 3,623	1,363	1,847	2,161	2,281	1,834	804	1,791	15,704
指数	男	35 3.68	7.1	15.7	12.9	9.6	8.9	3.7	5.3	1000
		40 3.31	8.1	12.1	14.9	10.9	9.8	4.3	6.8	1000
		45 2.56	9.8	13.7	13.7	14.2	10.1	4.6	8.5	1000
	女	35 3.32	7.2	15.4	12.8	10.7	9.3	3.9	7.5	1000
		40 3.05	6.5	12.3	14.4	11.8	10.6	4.8	9.1	1000
		45 2.31	8.7	11.7	13.8	14.5	11.7	5.1	11.4	1000

30年～35年の減少は緩やかであったが、35年以降の減少は激しく、10年間で2割も減少している。

とくに35～40年の減少が大きいのは、1戸当り世帯員数の減少によるところが大きい。また1戸当り世帯員数は全国平均で0.8人の減少であるのに対し、本市では1.0人減少し、徐々に全国平均に近づいている。

(2) 年令別農家人口

これを年令別にみると、15才以下が出生率の低下を反映して10年間に45%も減少し、構成比も男が3.68%から2.56%に、女が3.32%から2.31%に激減している。次に減少の著しいのは、20～29才で、減少が35～40年に集中しているが、10年間に35%減少している。経済の高度成長による農村からの労働力の流出が、新規学卒者を中心に若年層に集中したためである。16～19才は、進学率の上昇によって40～45年は増加をみ、構成率は高くなっている。40～49才と60才以上が増加し、40～49才以上の各年令層の構成率が高くなっているところから老令化の進行が顕著である。

表にはでていないが、この傾向は女に強く、経営規模の大きい農家に60才以上の人が多い。

(3) 世帯員数別農家数

世帯員数別農家数をみると35年、45年ともに6人家族が一番多いが、35年と45年ではかなり異なっている。35年は6人、7人、5人、8人、9人といった順序であったが、45年は6人、5人、4人、7人、3人といった順序になっており、ほとんどの階層で1人少ないところに頂点がきている。また35年では11人以上の農家数が186戸、9～10人が624戸、8人が816戸であったが、10年後の45年にはそれぞれ、3戸、113戸、308戸となっており、多人数の世帯は激減している。反対に、3人、4人、5人といった少人数の世帯が増加している。

これを経営耕地規模との関係でみると、規模の大きい農家ほど多人数の世帯が多く、1戸当り世帯員数も多い。

3-3表 世帯員数別農家数

単位 人・%

		1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9~10人	11人以上	計	1戸当世帯員数
		35	例外規定		8	7	13	16	16	3	2	1	1
	0.1~0.3	15	24	60	124	142	122	87	48	35	20	677	5.5
	0.3~0.5	7	27	53	104	113	127	96	54	44	13	638	5.7
	0.5~1.0	6	19	62	149	187	225	170	110	65	21	1,014	5.9
	1.0~1.5		5	24	62	125	147	121	89	66	16	655	6.4
	1.5~2.0		3	13	45	95	130	126	83	55	14	564	6.6
	2.0~2.5		3	9	47	79	131	139	91	64	19	582	6.7
	2.5~3.0	1	2	8	18	58	92	137	88	82	22	508	7.1
	3.0ha以上	1		8	37	143	212	264	251	212	60	1,188	7.3
	計	30	91	244	599	958	1,202	1,143	816	624	186	5,893	6.4
45	例外規定		1	7	7	1	6	1				23	4.3
	0.1~0.3	10	40	74	165	160	107	44	24	5		629	4.7
	0.3~0.5	3	31	86	139	160	117	68	24	6	1	635	4.9
	0.5~1.0	5	44	96	205	259	226	98	32	7		972	5.0
	1.0~1.5	1	13	46	110	145	164	76	21	12		588	5.3
	1.5~2.0	2	7	37	81	167	163	84	22	9		572	5.4
	2.0~2.5		4	20	82	111	174	96	35	17		539	5.8
	2.5~3.0		4	22	54	119	148	108	42	16	1	514	5.9
	3.0ha以上		2	28	105	245	345	248	108	41	1	1,123	6.0
	計	21	146	416	948	1,367	1,450	823	308	113	3	5,595	5.4

(4) 就業状態別農家人口

3-4表 就業状態別世帯員数(16才以上の世帯員)

単位 人・%

			自家農業だけに従事した人		自家農業とその他の仕事に従事した人				その他の仕事だけに従事した人		仕事に従事しなかった人
			総人数	うち仕事の主の人	自家農業が主		他の仕事为主		総人数	うち仕事の主の人	
					総人数	うち仕事の主の人	総人数	うち仕事の主の人			
実	男	3.5	6,094	5,367	484	479	1,967	1,931	1,725	1,713	1,237
		4.0	4,382	3,523	1,123	1,117	2,722	2,714	1,119	1,110	1,270
		4.5	3,599	2,449	1,679	1,674	3,004	2,960	1,185	1,162	1,313
	女	3.5	8,496	5,995	496	481	418	387	677	636	2,974
		4.0	7,160	4,090	724	668	1,063	997	552	490	2,568
		4.5	5,954	2,976	991	949	1,543	1,437	765	711	2,828
指	男	3.5	719	656	2,320	2,332	1,384	1,405	649	648	1,027
		4.0	821	695	1,495	1,499	1,104	1,091	1,059	1,046	1,034
		4.5	591	456	3,469	3,423	1,527	1,533	687	678	1,061
	女	3.5	834	682	1,460	1,389	2,543	2,576	828	770	863
		4.0	832	728	1,369	1,421	1,452	1,441	1,386	1,451	1,101
		4.5	701	496	1,998	1,973	3,691	3,713	1,130	1,118	951

兼業化の浸透を反映して、自家農業だけに従事した人は、この10年間に男が59.1%、女が70.1%に減少し、そのうちふだん仕事をしている人は更に減少が大きく、男が45.6%、女49.6%と半分以下に減少している。総人数の減少が男より女に少ないのは、女の場合家事や育事があるために兼業従事に進みにくいからと思われる。

自家農業とその他の仕事の両方に従事した人は、一方で経済の高度成長による所得格差の是正のため、他方で農業労働力の大量の流出による労力不足緩和のため農業以外の仕事だけに従事していた人をも吸収して激増した。しかし男女間には大きな差がみられ、男は自家農業に主として従事した人の増加が多く、10年間に約3.5倍に増加しているが、女は2倍であり、逆に女は農業以外の仕事に主として従事した人が10年間に3.7倍に増加しているが、男は1.5倍にとどまっている。こうした結果が生じたのは、主として兼業化がより規模の大きい農家で波及したことや機械化が

一層進んだことによって、農業経営が男の労働への依存性をより強めたためであり、後述のように規模が大きくなるにつれて自家農業労働に占める男の比重が高くなっているのは何よりもこのことを物語っている。

その他の仕事だけに従事した人は35～40年は二、三男等の大量の流出によって大きく減少したが、40～45年は農業構造改善事業の推進や集団栽培の普及による省力化によるものの外、終戦直後の出生率の急上昇による影響もあって男女とも増加している。また増加は自家農業以外の仕事为主の農業従事者の増加とともに女に多く、女性の職場進出が急速であったことを示している。

次に以上のことを年齢との関係で示すと3-5表から3-8表までのようである。

自家農業だけに従事した人の総数は男が60～64才、女が55～59才まで年齢が高くなるにつれて構成比が高くなっているが、ふだん農業に従事した人の構成比は男女でかなり異った動きを示している。男は40～45才から60～64才まで3割台を示し、年齢が低くなるほど構成比も低下し、20～24才では15%に低下しているが、女は男とかなりの相違を示し、25～29才から40～44才まで4割台を示し、45～49才が38.4%を示しているが、それ以上でも、それ以下でも急激に比率が低下している。また男が高年齢まで動きが緩やかであるのに対し、女は動きが激しく50才台になると急激に比率が低下している。

次に40～45年の5年間の推移をみると、総人数は30才台の減少が男に多のを除いて男女間に大きな差異はみられないが、ふだん農業をしている人は高年齢に男の減少が多く、女は逆に人数が少なかったこともあって高年齢の人が若干増加している。

3-5表 自家農業だけに従事した人

単位 人・%

		総人数				うち仕事为主			
		40	45	45/40	45年 構成比	40	45	45/40	45年 構成比
男	16～19	377	317	84.0	224	87	43	49.4	3.0
	20～24	231	193	83.5	162	223	179	80.3	15.0
	25～29	270	151	55.9	192	266	148	55.6	18.8
	30～34	415	174	41.9	198	411	172	41.8	19.6
	35～39	508	293	57.7	266	506	289	57.1	26.2
	40～44	416	387	93.2	335	411	376	91.5	32.6
	45～49	380	353	92.9	394	371	334	90.0	37.1
	50～54	438	324	74.0	448	398	285	71.6	39.4
	55～59	425	405	95.3	55.0	372	256	68.8	34.8
	60～64	413	408	98.8	61.2	274	208	75.9	32.2
	65才以上	509	594	116.7	48.3	204	159	77.9	12.9
計	4,382	3,599	82.1	33.4	3,523	2,449	69.5	22.7	
女	16～19	341	281	82.6	20.6	97	31	31.9	2.3
	20～24	530	417	78.7	38.4	464	288	62.1	26.4
	25～29	711	384	54.0	50.7	632	318	50.3	4.20
	30～34	831	517	62.2	52.2	751	444	59.1	4.48
	35～39	916	612	66.8	52.3	766	508	66.3	4.34
	40～44	806	775	96.2	61.3	576	569	98.8	4.50
	45～49	722	699	96.8	68.7	368	395	107.3	38.4
	50～54	782	661	84.5	70.9	238	183	76.9	19.6
	55～59	600	642	107.0	71.3	103	132	128.2	14.7
	60～64	498	468	94.0	58.2	60	58	96.7	7.2
	65才以上	423	498	117.7	27.8	35	50	142.9	2.8
計	7,163	5,954	83.2	49.3	4,090	2,976	72.8	24.6	

		総人数				うち仕事の主			
		40	45	45/40	45年 構成比	40	45	45/40	45年 構成比
男	16~19	31	63	203.2	4.4	30	63	210.0	4.4
	20~24	118	256	216.9	21.4	118	255	216.1	21.3
	25~29	187	199	106.4	25.3	186	198	106.5	25.2
	30~34	226	255	112.8	29.1	226	255	112.8	29.1
	35~39	185	292	157.8	26.5	185	291	157.3	26.4
	40~44	133	267	200.8	23.1	132	267	202.3	23.1
	45~49	92	166	180.4	18.5	91	165	181.3	18.4
	50~54	61	81	132.8	11.2	61	81	132.8	11.2
	55~59	45	50	111.1	6.8	45	50	111.1	6.8
	60~64	30	29	96.7	4.3	29	29	100.0	4.3
	65才以上	15	21	140.0	1.7	14	20	142.9	1.6
計		1,123	1,679	149.5	15.6	1,117	1,674	149.7	15.5
女	16~19	9	18	200.0	1.3	9	16	179.8	1.2
	20~24	53	56	105.7	5.1	52	56	103.8	5.1
	25~29	109	112	102.8	14.8	106	112	105.7	14.8
	30~34	139	220	158.3	22.2	130	217	166.9	21.9
	35~39	164	247	150.6	21.1	153	242	158.2	20.7
	40~44	87	188	216.1	14.9	79	179	226.7	14.2
	45~49	63	95	150.8	9.3	54	84	155.6	18.3
	50~54	49	30	61.2	3.2	43	27	62.8	2.9
	55~59	25	19	76.0	2.1	22	11	50.0	1.2
	60~64	14	4	28.6	0.5	8	3	37.5	0.4
	65才以上	12	2	16.7	0.1	12	2	16.7	0.1
計		724	991	136.9	8.2	668	949	142.1	7.9

自家農業が主の自家農業従事者は男女とも30才台にもっとも構成比が高くなっており、50才台に急激に低下しているのも男女共通であるが、女の低下がより激しく、20~24才の女の極端に少ないのが目につく。20~24才の女が極端に少ないのは、全然仕事に従事していない人が2割に達することからもわかるように、この年令は結婚前、花嫁修業中の人が多く、農閑期に兼業従事という形態をとりにくいからと思われる。40~45年の推移は男が40才台と20~24才の増加が多く、それ以外の年令でもかなりの増加がみられるが、女は30才台、40才台の増加が多く、20才台も若干増加しているが、50才以上は極端に減少している。

農業以外の仕事の主の農業従事者は、男が20才台から50~54才まで3割台を示し、高年令層まで平均化しているが、女は20~24才、から40~44才まで2割前後を示しているが45~49才になると急激に減少している。40~45年の推移は男の25~29才と30~34才の減少を除いて男女とも増加しているが、男は20~24才と40~44才以上の増加が多く、女は35~39才以上の増加が特に多い。男の20~24才の増加は先にも述べたようにこの年令層の人口が急激に増加したからであるが、男の40~44才以上と女の35~39才以上の増加は農業労働の省力化もさることながら、農家所得がますます兼業所得への依存を強めた結果、さらに高年令層まで兼業主体の兼業従事が進んだためである。

自家農業以外の仕事だけに従事した人は男女とも若い人ほど構成比が高く、20~24才の構成比が極端に高く男女とも4分の1以上である。25~29才になると男が19.8%、女が11.0%に低下し、30~34才になると男が11.9%、女が3.8%に低下している。40~45年の推移は男が20~24才、40~44才、65才以上を除く各年令層で減少しているが女は中間層に増加が多く、25~29才と30~34才に若干減少がみられる程度である。こうした男女間の大きな差は、農業の機械化が急速に進んだことによるものと思われる。

このように年令別にみた場合の男女間の差異、即ち男の動きが比較的緩やかなのに対し女の動きが激しいのは、農業労働の大型機械化による質的变化もさることながら、家事、育児労働の差によるところが大きいものと思われる。

3-7表 他の仕事の主の自家農業従事者

単位 人・%

		総人数				うち仕事の主			
		40	45	45/40 構成比	45年 構成比	40	45	45/40 構成比	45年 構成比
男	16~19	128	150	117.2	10.6	127	144	113.4	10.2
	20~24	268	387	144.4	32.4	264	382	144.7	32.1
	25~29	334	277	82.9	35.2	334	274	82.0	34.8
	30~34	393	334	85.0	38.1	393	333	84.7	38.0
	35~39	396	411	103.8	37.3	396	409	103.3	37.1
	40~44	322	414	128.6	35.8	321	412	128.3	35.7
	45~49	248	315	127.0	35.1	248	314	126.6	35.0
	50~54	259	262	101.2	36.2	258	260	100.7	35.9
	55~59	172	206	119.8	28.6	172	202	117.4	29.4
	60~64	107	138	129.0	20.7	106	135	127.4	20.2
	65才以上	95	110	115.8	9.0	95	95	100.0	7.7
	計	2722	3004	110.4	29.9	2714	2960	109.1	27.5
女	16~19	51	87	170.6	6.4	50	85	170.0	6.3
	20~24	182	209	114.8	19.2	176	202	114.8	18.5
	25~29	133	156	117.3	20.6	131	152	115.2	20.1
	30~34	180	197	109.4	19.9	172	189	109.9	19.1
	35~39	178	264	148.3	22.6	170	248	145.9	21.2
	40~44	132	252	190.9	19.9	125	240	192.0	19.0
	45~49	99	146	147.5	14.4	87	138	158.6	13.6
	50~54	42	98	233.3	10.5	34	88	258.8	9.4
	55~59	32	58	181.3	6.4	29	44	151.7	4.9
	60~64	21	35	166.7	4.4	14	26	185.7	3.2
	65才以上	13	41	315.4	2.3	9	25	277.8	1.4
	計	1,063	1,543	145.2	12.8	997	1,437	144.1	11.9

3-8表 自家農業以外の仕事だけに従事した人

単位 人・%

		総人数				うち仕事の主			
		40	45	45/40 構成比	45年 構成比	40	45	45/40 構成比	45年 構成比
男	16~19	141	201	142.6	14.2	138	194	140.6	13.7
	20~24	264	315	119.3	26.4	263	315	119.8	26.4
	25~29	194	156	80.4	19.8	193	152	99.3	19.3
	30~34	128	104	81.3	11.9	128	104	81.3	11.9
	35~39	98	97	99.0	8.8	98	97	99.0	8.8
	40~44	60	79	131.7	6.8	60	79	131.7	6.8
	45~49	63	56	88.9	6.2	62	56	90.3	6.2
	50~54	50	49	98.0	6.8	50	49	98.0	6.8
	55~59	43	39	90.7	5.3	43	38	88.4	5.2
	60~64	42	30	71.4	4.5	41	29	70.7	4.4
	65才以上	36	59	163.9	4.0	34	49	144.1	4.8
	計	1,119	1,185	105.9	11.0	1,110	1,162	104.7	10.8
女	16~19	81	164	202.5	12.0	74	160	216.2	11.7
	20~24	231	324	140.3	29.7	213	318	149.3	29.2
	25~29	95	83	87.4	11.0	91	80	87.9	10.6
	30~34	38	38	100.0	3.8	38	37	97.4	3.7
	35~39	15	29	193.3	2.5	13	28	215.4	2.4
	40~44	19	27	142.1	2.1	18	25	138.9	2.0
	45~49	13	30	230.8	3.0	11	23	209.1	2.3
	50~54	9	19	211.1	2.1	4	14	350.0	1.5
	55~59	16	8	50.0	0.9	10	4	40.0	0.4
	60~64	20	18	90.0	2.2	12	8	66.7	1.0
	65才以上	15	25	166.7	1.4	6	14	233.3	0.8
	計	552	765	138.6	6.3	490	711	145.1	5.9

(5) 農業従事者数

自家農業従事者は、年々減少をたどってきたが、ここ2～3年はかならずしも減少を示さず、表にはでていないが、県、国と同様若干の増加がみられる。35～40年は後述のように農業年層が激減し、農業臨時雇いで補充してきたが、40～45年は農業臨時雇も激減している。
こうした現象を反映して、10年間の自家農業従事者数の減少は鈍く、農家数の減少をやや上回る程度の減少にとどまっている。

3-9表 自家農業従事者数 単位 人・%

	酒田市	山形県	全国
30	19,573	411,003	193,209,25
35	17,955	366,810	17,657,261
40	17,174	326,546	15,433,345
45	16,770	330,715	15,463,000
35/30	91.7	89.2	91.4
40/35	97.5	89.0	87.5
45/40	97.6	101.3	100.1
45/35	93.4	90.2	87.6

自家農業従事者数を男女、年齢別にみると、40～45年に女が460人減少しているのに対し、男は50人増加している。この相違は20～24才の男が220人増加したのに、女は同年令層が80人、25～29才が300人と20才台の減少が激しかったからである。また全体の減少が少ないのは、35～39才以下の減少を40～44才以上の増加で補ってきたためであって農業労働の老齢化が男女とも顕著である。

3-10表 年齢別自家農業従事者数

単位 人

	40年			45年		
	男	女	計	男	女	計
16～19	536	401	937	530	386	916
20～24	617	765	1,382	836	682	1,518
25～29	791	953	1,744	627	652	1,279
30～34	1,034	1,150	2,184	763	934	1,697
35～39	1,089	1,258	2,347	996	1,123	2,119
40～44	871	1,025	1,896	1,068	1,215	2,283
45～49	720	884	1,604	834	940	1,774
50～54	758	873	1,631	667	789	1,456
55～59	642	657	1,299	661	719	1,380
60～64	550	533	1,083	575	507	1,082
65才以上	619	448	1,067	725	541	1,266
計	8,227	8,947	17,174	8,282	8,488	16,770

3-11表 ふだん自家農業に従事した人 (基幹的農業従事者)

単位 人・%

		16 ～ 19	20 ～ 24	25 ～ 29	30 ～ 34	35 ～ 39	40 ～ 44	45 ～ 49	50 ～ 54	55 ～ 59	60 ～ 64	65才 以上	計
男	40	117	341	452	637	691	543	462	459	417	303	218	4,640
	45	106	434	346	427	580	643	499	366	306	237	179	4,123
女	40	106	516	738	881	919	655	422	281	125	68	47	4,758
	45	47	344	430	661	750	748	479	210	143	61	52	3,925
男	45/40	90.6	127.3	76.6	67.0	83.9	118.4	108.0	79.7	73.7	78.2	82.1	88.9
女	45/40	44.3	66.7	58.3	75.0	81.6	114.2	113.5	74.7	114.4	89.7	110.6	82.5

自家農業に従事した人はあまり減少しなかったが、ふだん農業に従事した人は40～45年に男が88.9%、女が82.5%に減少している。減少は女に多く、それも20才台に多い。逆に男は20～24才が2.7%も増加しているが、25～29才は女同様減少している。男の20～25才の増加は終戦直後の出生率の急上昇による影響で、農家の後とりがこの年齢層に集中したためとみられる。また40～44才、45～49才に増加がみられるが、これは兼業従事を続けたからではなく、5年前の35～39才、40～44才の人が同年の5才上の層よりかなり多かったことによるものである。表から女は基幹的農業従事者も老齢化したといえるが、男は高年齢層もかなり減少が大きく、2-10表は補助的農業従事者の老齢化を示したものとみるべきである。

自家農業に主として従事した世帯員数別農家数をみると、1人もいない農家が1ha未満層を中心に急増し、1.0～1.5haでも73戸(12.4%)に及んでいる。1人いる農家は、1ha未満では急減し、1.0～2.0haでは急増している。1ha未満は5年前に1人いたのが、0人になり、1.0～2.0haは2人いたのが1人に減ったものである。2人いる農家は1ha未満では半分近くに減少したが、1.0～2.0haでは3人以上の減少もあって、若干増加している。3人以上はどの階層でも減少しているが、規模の大きい農家ほど減少が少ない。また、減少の傾向として、1ha未満では0人化し、1～2haは女の比重を高めながら1人化し、2ha以上は2人に近づきながら男の比重を高めてきたといえる。そしてこの傾向は、更に規模の大きい農家に波及していくものとみなければならぬ。

3-12表 自家農業に主として従事した世帯員数別農家数

単位 戸

	総数	0人		1人			2人			3人以上		
		男1人	女1人	男2人	男1人	女2人	男3人以上	男2人	男1人	女計		
											男1人	女計
40	例外規定	33	15	1	10	1	5		1			
	0.1~0.3	634	383	10	191		10	37	1		2	
	0.3~0.5	626	271	15	289		12	37		1	1	
	0.5~1.0	996	188	66	478		163	69	6	24	2	
	1.0~1.5	633	40	38	177	4	225	52	29	67	1	
	1.5~2.0	563	9	15	58	6	316	15	1	79	64	
	2.0~2.5	575	5	14	27	7	306	6	4	133	73	
年	2.5~3.0	515	3	10	7	11	257	4	3	150	70	
	3.0ha以上	1,126	3	27	9	12	571	4	19	347	134	
	計	5,701	917	196	1,246	41	1,865	224	27	746	433	6
45	例外規定	23	12	1	4		4		2			
	0.1~0.3	629	546	9	69		4		1			
	0.3~0.5	635	451	16	157		7	3		1		
	0.5~1.0	972	336	71	423		98	29	4	10	1	
	1.0~1.5	588	73	39	205	3	195	30	22	21		
	1.5~2.0	572	18	24	93	6	314	21	54	42		
	2.0~2.5	539	6	11	25	12	334	10	1	94	46	
年	2.5~3.0	514	2	10	11	16	278	5	3	132	56	1
	3.0ha以上	1,123	6	17	17	15	587	3	11	339	128	
	計	5,595	1,450	198	1,004	52	1,821	101	15	648	304	2

3-13表 農業年雇

単位 戸・人

	35年			40年			45年					
	雇った農家数	雇った人数		雇った農家数	雇った人数		雇った農家数	雇った人数				
		男	女		計	男		女	計			
40	例外規定	4	9	3	12	1	1	1	2	1	1	1
	0.1~0.3									1	1	1
	0.3~0.5	1	1		1	1	1		1			
	0.5~1.0	4	2	4	6	1		1	1	1	1	1
	1.0~1.5	14	9	10	19	6		6	6	2	1	1
	1.5~2.0	37	19	21	40	8	6	2	8	1	1	1
	2.0~2.5	101	66	47	113	14	9	6	15	5	5	1
	2.5~3.0	163	101	74	175	29	18	14	32	3	1	2
	3.0ha以上	770	676	351	1,027	147	98	68	166	36	25	15
	計	1,094	883	510	1,393	207	133	98	231	50	36	19

3-14表 農業臨時雇

単位 人

	35年			40年			45年			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
40	例外規定	75	30	105					30	30
	0.1~0.3	446	552	998	170	306	476	215	410	625
	0.3~0.5	730	1,110	1,840	647	1,432	2,079	233	771	1,004
	0.5~1.0	1,976	3,664	5,640	2,184	6,389	8,573	1,133	3,569	4,702
	1.0~1.5	4,123	6,820	10,943	3,752	8,704	12,456	1,554	4,476	6,030
	1.5~2.0	6,204	12,307	18,511	6,280	13,922	20,202	2,711	7,636	10,347
	2.0~2.5	12,590	20,315	32,905	10,207	23,676	32,883	4,361	11,104	15,465
	2.5~3.0	15,640	26,200	41,840	13,551	30,760	45,311	5,327	15,659	20,986
	3.0ha以上	52,362	82,640	135,002	45,778	106,092	151,870	22,098	55,727	77,825
	計	94,146	153,638	247,784	82,569	191,281	273,850	37,632	99,382	137,014

4 経 営 土 地

35年に1,400人いた農業年雇は、5年後の40年に230人、10年後の45年に55人を残すだけとなった。35年には3ha以上の農家の大半が農業年雇を抱えていたが、45年には36戸に激減している。反面農業臨時雇いは、農家の二三男や農業年雇の激減による労力不足を緩和するため、40年には35年より2割も増加している。

また、その増加は女によるところが多く、男は12,000人減少している。しかし、45年には男女とも大巾に減少し、40年の半分近くになっている。

こうした現象は、兼業化の浸透を反映して農業雇用労働の確保が困難になったことのほか、農業労働の機械化による所要時間の減少、とりわけ稲の刈取の機械化によるところが大きい。44年には刈取機の大量の導入により、米の10a当り労働時間は飛躍的に減少している。

手間替、ゆいは、労働不足を緩和する手段として、共同作業や集団栽培が盛んになったことによって急増している。41年度

から実施された農業構造改善事業による農業近代化施設利用組合の結成はこうした動きを一層助長し、表にみられるような急速な伸びを示したものと思われる。

以上農業労働力人口減少の質的变化について簡単にみてきたが、自家農業従事者の減少が進まない原因として、農業労働が機械化されながらも手労働力による部分を多く残していることがあげられよう。

3-15表 手間替・ゆい

単位 戸・人

	40年		45年	
	農家数	人数	農家数	人数
例外規定				
0.1~0.3	46	308	212	1,169
0.3~0.5	81	634	294	2,701
0.5~1.0	183	1,819	592	8,502
1.0~1.5	127	1,520	378	7,860
1.5~2.0	137	1,703	423	10,588
2.0~2.5	126	1,613	408	13,044
2.5~3.0	125	1,831	410	14,710
3.0ha以上	219	3,406	858	29,708
計	1,044	12,834	3,575	88,282

4-1表 経営耕地面積

単位ヘクタール

	田			畑			樹 園 地		
	酒田	山形県	全 国	酒田	山形県	全 国	酒田	山形県	全 国
30	8,171	96,409	2,850,984	1,528	26,498	2,011,743	145	9,350	291,877
35	8,271	97,775	2,939,897	1,466	26,562	2,017,785	179	10,713	321,891
40	8,148	97,684	2,942,871	1,265	22,698	1,755,398	211	13,002	392,945
45	8,006	102,945		1,220	17,849		236	13,170	

	う ち 果 樹 園			計		
	酒田	山形県	全 国	酒田	山形県	全 国
30	118	1,698	96,865	9,844	135,891	5,154,604
35	156	4,199	149,197	9,916	135,050	5,279,573
40	191	7,232	230,341	9,623	133,384	5,019,221
45	221	7,708		9,463	133,964	

経営耕地面積は、35年に若干の増加をみているが、その後は減少に転じ、10年間に450ha減少している。しかし、国全体では、40~45年に水田の若干の増加をみながら、約5%減少しており、酒田の10年分を上回っている。果樹園の面積は全国的に激増しており、本市の果樹園も、10年間に約2倍になっているが、その増加は鈍い。畑は10年間で240haも減少している。

5 農 作 物

5-2表 果樹栽培面積

(1) 農作物作付面積

5-1表 主要農作物作付面積

単位ヘクタール

	酒 田			山 形 果			全 国		
	35	40	44	35	40	44	35	40	44
	水 稲	7,971	7,800	7,780	101,100	101,200	101,200	3,150,000	3,128,000
麦 類	528	271	20	4,490	1,947	184	1,012,700	607,800	352,900
い も 類	488	528	247	5,020	4,907	2,670	530,900	458,900	322,700
ま め 類	267	291	155	11,040	8,009	4,077	539,500	384,700	258,100
きゆうり	20	30	29	540	722	642	27,100	34,500	31,700
かぼちや	36	34	31	590	608	498	27,200	22,700	17,200
すいか	55	110	153	360	495	783	36,100	37,700	38,600
なす	48	52	60	930	1,050	940	27,600	30,000	26,800
とまと	30	36	37	150	243	226	13,200	18,900	19,500
きやべつ	15	38	44	210	477	444	32,300	43,000	45,300
結球白菜	18	17	50	820	1,200	920	41,000	49,600	49,400
非結球つげな	69	60	39	630	614	520	23,000	24,000	22,700
くりれんそう	5	23	15	90	244	206	20,700	24,000	23,700
ねぎ	103	102	105	510	636	620	25,800	29,500	28,000
だいこん	25	102	119	2,320	1,930	1,640	102,700	98,400	86,500
かぶ	20	21	18	310	298	239	9,270	9,440	8,850
にんじん	13	31	31	130	262	244	20,100	23,900	24,500
ごぼう	20	15	16	310	325	274	18,900	19,300	18,000
さといも	19	14	13	290	349	322	39,000	38,900	37,300
いちご		34	38		144	183		9,600	12,500

資料 山形農林水産統計年報

全国的には開田が進み、年々水稲の作付面積が増加しているが、本市では宅地化等によって水田の償戻が大きく、減少している。畑作物では、麦類、いも類、まめ類の減少が大きく、果菜類や菜菔菜類が増加している。野菜は必ずしも全国的な動きと一致せず、等産化の傾向にある。等にすいか、だいこん、ねぎの作付面積の増加が著しく、すいかは10年足らずのうちに約3倍に増えている。

	成 園 未成園 計	酒 田			山 形 果			全 国		
		35	40	44	35	40	44	35	40	44
も も	成 園	172	143	145	730	1,160	1,610	15,200	16,900	17,600
	未成園	47	17	7	290	396	200	4,180	4,150	3,170
	計	219	160	152	1,020	1,556	1,810	19,380	21,050	20,770
か き	成 園	94	189	235	690	1,720	1,990	32,300	33,600	32,400
	未成園	15	31	38	130	378	432	3,220	4,640	4,410
	計	109	220	273	820	2,098	2,420	35,520	38,240	36,810
ぶ どう	成 園	22	34	41	1,130	1,670	2,010	11,600	17,700	20,100
	未成園	5	6	3	390	258	199	3,680	4,930	3,260
	計	27	40	44	1,520	1,928	2,209	15,280	22,630	23,360
りんご	成 園	65	23	21	2,280	2,650	3,290	49,900	55,700	55,200
	未成園	15	5	1	910	982	308	12,600	9,980	6,650
	計	80	28	22	3,190	3,630	3,598	62,500	65,680	61,250
日本なし	成 園	34	24	27	130	132	139	13,600	15,900	16,300
	未成園	1	2	1	40	17	7	3,670	3,240	1,810
	計	36	26	28	170	149	146	12,270	19,140	18,110
西洋なし	成 園	11	12	10	220	596	593	700	1,170	1,280
	未成園	9	5	2	280	367	139	450	761	287
	計	20	17	12	500	963	732	1,150	1,931	1,570

資料 山形農林水産統計年報

果樹では、全国的にはかんきつ類の増加が顕著であり、くりやうめがこれに次いでいるが、りんごを筆頭に柿、もも、なしは減少に転じている。

本市では柿が大きく伸び、ぶどうが微増しているが、他は減少に転じている。

5-3表 主要農作物10アール当り収量

	水 稻			大 麦			小 麦			か ん し ょ			げ れ い し ょ			だ い ず			あ ず き		
	酒 田	山 形 県	全 国	酒 田	山 形 県	全 国	酒 田	山 形 県	全 国	酒 田	山 形 県	全 国	酒 田	山 形 県	全 国	酒 田	山 形 県	全 国	酒 田	山 形 県	全 国
35	523	483	398	246	268	303	210	268	252	1,294	1,305	1,837	1,925	1,820	1,764	148	158	135	105	92	121
40	552	496	390	217	257	238	148	227	270	1,310	1,280	1,930	1,770	1,590	1,930	166	141	125	108	88	100
41	542	514	400	260	297	338	220	276	243	1,350	1,340	1,980	1,970	1,840	1,750	165	148	118	110	89	76
42	608	567	453	265	285	346	221	261	272	1,410	1,400	1,880	2,180	1,940	2,040	173	151	135	117	93	128
43	589	569	449	261	288	345	218	259	314	1,320	1,320	1,930	2,010	1,900	2,160	161	153	137	107	92	113
44	512	532	435	255	270	331	193	264	265	1,420	1,320	1,860	1,970	1,900	2,050	156	145	132	102	90	104

資料 山形農林水産年報

	き ゆ う り			か ぼ ち や			す い か			な す			と ま と			き や べ つ			結 球 白 菜		
	酒 田	山 形 県	全 国	酒 田	山 形 県	全 国	酒 田	山 形 県	全 国	酒 田	山 形 県	全 国	酒 田	山 形 県	全 国	酒 田	山 形 県	全 国	酒 田	山 形 県	全 国
35	1,903	1,895	1,710	1,551	1,728	1,595	1,107	1,395	2,054	2,528	1,720	1,628	707	956	1,836	2,063	1,757	2,125	1,679	2,977	2,434
40	2,140	2,290	2,230	1,800	1,660	1,540	1,360	1,350	1,960	2,020	1,730	2,080	1,800	1,290	2,810	1,740	1,730	2,680	2,550	3,310	3,110
41	2,090	2,350	2,460	1,760	1,640	1,540	1,370	1,310	2,200	1,990	1,780	2,240	2,080	2,340	3,220	1,910	2,010	2,900	2,500	3,730	3,170
42	2,130	3,160	2,790	1,830	1,740	1,690	3,900	2,950	2,650	2,100	2,160	2,470	3,560	3,560	3,820	2,020	2,280	2,980	2,640	3,440	3,310
43	2,130	3,210	2,980	1,730	1,790	1,760	3,100	3,050	2,990	2,040	2,340	2,580	3,150	3,550	4,140	1,970	2,400	3,260	2,770	3,350	3,680
44	2,080	2,890	3,010	1,620	1,720	1,690	2,900	2,650	2,650	1,840	2,130	2,540	2,880	3,640	4,040	2,010	2,480	3,250	3,580	4,020	3,790

	非 結 球 つ け 菜			ね ぎ			だ い こ ん			に ん じ ん			い ち ご			ま く わ り り			未 成 熟 だ い ず		
	酒 田	山 形 県	全 国	酒 田	山 形 県	全 国	酒 田	山 形 県	全 国	酒 田	山 形 県	全 国	酒 田	山 形 県	全 国	酒 田	山 形 県	全 国	酒 田	山 形 県	全 国
35	1,817	1,985	1,775	1,918	1,613	1,587	2,895	3,207	2,784	1,499	1,284	1,400							808	746	721
40	1,940	2,330	1,940	1,920	1,730	1,590	2,530	3,090	3,140	1,260	1,280	1,680	980	951	786	1,420	1,260	1,280	1,090	1,020	926
41	2,000	2,690	1,960	2,040	2,000	2,020	2,410	3,430	3,120	1,380	1,390	1,730	1,050	981	931	1,570	1,170	1,320	1,080	1,280	903
42	2,190	3,140	1,960	2,430	2,680	2,100	3,060	3,740	3,170	1,440	1,470	1,790	860	982	893	1,690	1,270	1,440	1,090	1,150	981
43	2,120	3,170	2,100	2,590	2,670	2,200	3,300	3,740	3,410	1,350	1,480	1,980	850	1,010	997	1,900	1,560	1,550	910	1,150	996
44	2,120	3,390	2,090	2,970	2,940	2,210	3,850	4,100	3,410	1,410	1,510	1,960	610	894	1,030	1,540	1,410	1,540	860	1,100	1,000

(2) 主要作物10アール当り生産量

びも大きいすいか、ねぎ、まくわりり等は特産化し、県外出荷の盛んな作物である。また県外出荷の行なわれている大根の収量も伸びている。市場の開拓や価格の安定と収量の伸びとはかなり強い関係があるように思われる。

次に10a当り収量をみると、水稻、すいか、ねぎ、まくわりり等が高い水準にあり、収量の伸

6 家 畜

(1) 乳用牛

6-1表 乳用牛飼養頭数

単位 頭

	酒 田					山 形 県			全 国		
	飼 養 農家数	飼 養 頭 数				飼 養 農家数	総飼養 頭 数	1戸当 り頭数	飼 養 農家数	総飼養 頭 数	1戸当 り頭数
		2才 未満	2才 以上	計	1戸当 り頭数						
30	290			403	1.4	7,162	9,703	1.4	253,850	421,110	1.7
35	414	171	438	609	1.5	11,180	14,950	1.3	410,420	823,500	2.0
40	337	208	433	641	1.9	11,929	21,033	1.8	381,600	1,288,950	3.4
42	313	189	458	617	2.0	11,337	20,337	1.8	346,900	1,376,000	4.0
43	287	183	427	610	2.1	10,417	20,341	2.0	336,000	1,489,000	4.4
44	298	255	463	718	2.4	9,757	21,651	2.2	324,440	1,663,360	5.1
45	299	295	533	828	2.8	9,040	23,299	2.6	307,600	1,804,000	5.9

全国の数値は農林省統計表による。

35年は農家数、頭数ともに大きく増加しているが、その後は増加が鈍く、42年、43年には逆に減少している。しかしここ2~3年は急上昇している。しかも30年に1.4頭であった1戸当り飼養頭数が、45年には2.8頭と倍になっており、酪農の農業経営に占める地位の向上とともに、酪農経営の合理化が図られているものとみられる。しかし、全国的には1戸当り飼養頭数が5.9頭となっており、逆に差が大きくなっている。

6-2表 経営耕地規模別飼養頭数

単位 戸・頭

	例 規 外 定	0.1~	0.3~	0.5~	1.0~	1.5~	2.0~	2.5~	3.0ha	計	
		0.3	0.5	1.0	1.5	2.0	2.5	以上			
飼 養 農家数	35	2	10	11	77	93	72	47	31	71	414
	40	3	2	7	56	83	59	45	29	53	337
	45	4	2	3	41	55	64	36	40	54	299
飼 養 頭 数	35	6	36	15	92	140	105	70	40	105	609
	40	21	5	13	117	152	120	78	52	83	641
	45	26	10	6	139	149	172	125	82	119	808

35年から40年までは0.5ha未満と3ha以上を除いた各階層で微増したが、40年から45年までは1.5~2.0ha以上に増加しており、上層農家の乳牛飼養農家数が増加している。今後とも酪農は上層農家に移行しながら多頭化されていくものと思われる。

(2) 役 肉 用 牛

6-3表 役肉用牛飼養頭数

単位 戸・頭

	飼 養 農 家 数			飼 養 頭 数		
	酒 田	山 形 県	全 国	酒 田	山 形 県	全 国
30	1,797	50,462	2,279,630	1,895	57,396	2,636,490
35	2,136	48,196	2,031,450	2,162	51,324	2,339,690
40	1,213	36,651	1,434,580	1,256	42,027	1,885,810
42	542	27,510	1,066,000	641	33,669	1,552,000
43	459	26,859	1,027,000	592	34,691	1,666,000
44	430	24,823	950,490	654	34,642	1,794,780
45	381	22,818	901,600	682	35,893	1,789,000

全国の数値は農林省統計表による。

6-4表 役肉用牛飼養頭数

単位 戸・頭

	例 外 規 定	0.1~	0.3~	0.5~	1.0~	1.5~	2.0~	2.5~	3.0ha	計
		0.3	0.5	1.0	1.5	2.0	2.5	以上		
飼 養 35		2	13	128	331	376	373	313	600	2,136
農家数 45		1	5	22	32	50	61	71	139	381
飼 養 35		2	14	130	335	376	378	316	611	2,162
頭 数, 45		1	9	41	46	94	110	111	270	682

役肉用牛は最近役用としての価値は皆無に等しく、完全に肉畜となっているが、減少傾向を示しながらも、なお上層農家の飼養が多い。資金が比較的多くいる上、回転が遅いため、下層農家に不向きであるのと、比較的手数がかからないことによるこうした傾向がたまたまのものと思われる。

(3) 豚

6-5表 豚飼養頭数

単位 戸・頭

	飼養農家数			飼養頭数			1戸当り頭数		
	酒田	山形県	全国	酒田	山形県	全国	酒田	山形県	全国
	30	990	4,316	527,900	1,193	6,100	825,160	1.2	1.4
35	1,979	8,608	799,120	2,894	13,346	1,917,580	1.5	1.5	2.4
40	2,059	12,494	701,560	6,907	55,131	3,975,960	3.4	4.4	5.7
42	1,828	11,987	649,000	8,520	73,278	5,975,000	4.7	6.1	9.2
43	1,596	10,342	530,600	7,040	62,288	5,535,000	4.4	6.0	10.4
44	1,446	8,898	461,030	7,268	56,896	5,429,080	5.0	6.4	11.8
45	1,324	8,943	444,500	12,979	102,754	6,335,000	9.8	11.5	14.3

全国の数値は農林省統計表による。

豚は費用も多くを要せず、飼い易いということもあって35年には農家数、頭数ともに倍以上に増えている。しかし表にみられるように1戸当りの頭数は少なく、1~2頭飼いが大半であった。その後は価格の騰落を繰り返しながら、急速に多頭化に向った。以前の養豚は農産物の残滓利用であったが、飼料の需給の緩和によって、濃厚肥料中心の養豚に変わることによって多頭化の傾向が一層強められた。

しかし最近では、豚の糞尿の処理とともに、悪臭や騒音による公害が発生し、その解決を迫られている。

(4) にわとり

6-6表 にわとり飼養羽数

単位 戸・羽

	採卵鶏					
	飼養農家数			飼養羽数		
	酒田	山形県	全国	酒田	山形県	全国
30	2,477	45,991	4,507,500	21,195	334,195	45,715,000
35	2,369	51,129	3,838,000	27,581	496,494	52,153,000
40	1,775	31,897	3,243,100	37,329	740,999	114,222,000
42	1,716	34,241	2,493,200	42,167	650,806	119,251,000
43	1,437	27,920	2,179,120	35,829	608,031	131,084,000
44	1,294	23,901	1,941,000	45,250	628,972	149,185,000
45	1,123	21,410	1,703,000	59,549	732,237	160,248,000

	ブローラー					
	飼養農家数			飼養羽数		
	酒田	山形県	全国	酒田	山形県	全国
30						
35						
40	4	59	20,490	4,800	38,867	18,279,000
42						31,365,000
43			18,600			34,736,000
44						41,087,000
45	6	91		13,400	179,600	53,742,000

全国の数値は農林省統計表による。

にわとりは年々飼養農家数が減少し、10年間に半減したが、飼養羽数は10年間に倍以上に伸びている。10年前に1戸もなかった1,000羽以上の農家も10数戸出現しており、養鶏専門的な農家もかなり出ている。

また最近ではブローラーの増加がめざましく、全国的には45年には採卵鶏の3分の1を越すまでに増加している。

(5) その他の家畜

6-7表 その他の家畜飼養頭数

単位 戸・頭

馬は完全に機械に代わられ、めん羊は、毛糸が容易に入手できるようになったため激減し、やぎも一般化したため、かなり減少している。

	馬		めん羊		やぎ	
	農家数	頭数	農家数	頭数	農家数	頭数
30	1,743	1,751	1,246	1,439	256	267
35	733	733	1,544	1,680		
40	103	108	311	324	164	177
45	12	13	10	10	145	156

7 農業機械

7-1表 個人有農用機械台数

単位 台	耕りん機・トラクター							動力噴霧機	動力散粉機	農用トラック	稲麦刈取機	コンバイン	米麦乾燥機	田植機	果用車			
	5 P S 未満		5~10		10~20		20~30									30 P S 以上		
	計																	
30	1,160	1,482					405	2	39									
35							1,422	24	429									
40	701	1,743	49				232	109	1,478			35	39					
45			363	9			486	891	2,593	603		2		1,689				

7-2表 数戸共有農家数と台数

単位 台	耕りん機・トラクター							動力噴霧機	動力散粉機	稲麦刈取機	コンバイン	米麦乾燥機	田植機			
	5 P S 未満		5~10		10~20		20~30							30 P S 以上		
	計															
農家数	35	173	243	132	19		686	49	107							
	40	143	175	321	176		567	126	125		9					
	45						727	87	351				5			
台数	35	72	101	35	5		292	13	28							
	40	40	59	92	38		213	23	27		1					
	45						232	16	93							

7-3表 組織有の農用機械（昭和45年2月1日）

単位 集落数・戸・台

	耕りん機・トラクター						動力噴霧機	動力散粉機	稲麦刈取機
	5 P S 未満	5~10	10~15	15~20	20~30	30 P S 以上			
集落数	4	7	8	16	62	29		42	93
利用農家数	171	404	443	521	2,203	1,359		1,298	4,033
台数	8	14	11	35	191	47	306	130	526

農業労働力は減少しつつあるが、農業生産量は年々上昇し、労働生産性は高くなっている。これは広汎な技術の進歩によるものであるが、とりわけ農業の機械化によるところが多く、最近における農用機械の伸びは著しいものがあつた。

耕りん機やトラクターは完全に牛馬にとって代り、最近急速に大型化が進み、所有形態も共有が多くなっている。

更に刈取機の導入も多く、田植機、コンバイン等の大型機械の導入もみられるようになった。

またトラクターの導入は、酒田方式といわれる構造改善事業によって、41年以降急速に利用組合有による大型化が図られたが、それ以前に導入された防除機械は生産組合有が多く、その後導入された刈取機は個人有が大半を占め、数戸共有が3分の1強で組織有は22台にすぎない。

こうした農業用機械の所有形態の動きは、今後の稲作に大きな影響を及ぼすものと考えられる。

8 農家経済

(1) 農業粗生産額

農業生産は年々上昇してきたのに、43年、44年は逆に減少に転じているが、これは米の減収によるところが多い。特に44年は異常気象による減収が甚しかったのに加えて米価が据置かれたために、かくも大きな減収になったものである。米は依然として農業の中心であり、その豊況が与える影響は極めて大きい。

しかし、稲作の相対的な地位は年々低下し、畜産、野菜、果樹の比率が高まっており、特に畜産の伸びが著しい。所得の上昇によって畜産物の需要が伸びたのと、余り大きな平面を必要としないことによって急速に生産が伸びたものである。

(2) 農家所得

酒田市の農家所得を表した資料がないので庄内の数値でこれを代用することにした。

農家所得は全国的に高い水準にあり、43年でも全国平均の1.8倍強であり、43/40でも全国

平均をかなり上回っている。また農外所得の伸びも全国平均とあまり大差はないが、農家所得の伸びは全国平均よりかなり低くなっている。これは庄内の農外所得が全国平均の7割に及ばないためと農家所得の伸びが農外所得の伸びに除々に大きく依存してきたためである。こうした傾向は今後も続くものとみられ、庄内の農家の経済的地位は除々に後退していくものとみられる。

(3) 10アール当り米生産費

農業生産の中心である米の生産費をみると、40年、41年では県平均や全国平均を少し上回っていたが、43年、44年は両者をかなり下回っている。

その大きな原因は、労働費の開きが一層大きくなったことと県平均が全国平均より高かった農具費が逆に両者より低くなったことにあるものと思われる。

労働費の構成比の低下が機械化によるものであることを考えると、農具費が両者より低くなっていることに矛盾を感じるが、これは最近の農用トラクター台数の伸びが庄内は県内でももっとも低く、しかも、所有形態が組織有や数戸共有のものが庄内の占める割合が高くなっていることによるものである。

8-1表 農業粗生産額

単位 百万円・%

	粗 生 産 額						構 成 比					
	35	40	41	42	43	44	35	40	41	42	43	44
米	2,894	4,643	4,988	6,164	6,100	5,332	79.7	77.4	75.6	75.9	76.2	71.8
麦類	40	19	8	7	5	2	1.1	0.3	0.1	0.1	0.1	0.0
雑穀・豆類	73	36	32	34	25	17	2.0	0.6	0.5	0.4	0.3	0.2
いも類	83	112	153	168	105	127	2.3	1.9	2.3	2.1	1.3	0.7
野菜	166	416	487	640	549	640	4.6	6.9	7.4	7.8	6.9	8.6
果樹	161	201	232	268	292	305	4.4	3.4	3.5	3.3	3.7	4.1
花き		2	1	3	3	2		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
工業作物	4	27	27	23	19	17	0.1	0.5	0.4	0.3	0.2	0.2
その他	1	2	2	2	3	43	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.6
耕種計	3,422	5,458	5,930	7,307	7,101	6,485	94.2	91.0	89.9	89.1	88.7	87.4
養蚕	6	6	8	10	8	8	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
養畜	203	527	656	887	898	929	5.6	8.8	9.9	10.8	11.2	12.5
計	3,631	5,991	6,594	8,206	8,007	7,422	100.0	99.9	99.9	100.0	100.0	100.0
加工農産物		5	5	2	2	2		0.1	0.1	0.0	0.0	0.0
合計	3,631	5,996	6,599	8,208	8,009	7,424	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

単位 千円・%

8-2表 農家所得

	農 業 所 得						農 外 所 得						農 家 所 得						
	農 業 所 得			農 業 所 得			農 業 所 得			農 業 所 得			農 業 所 得			農 業 所 得			
	全 国	山 形 県	庄 内	全 国	山 形 県	庄 内	全 国	山 形 県	庄 内	全 国	山 形 県	庄 内	全 国	山 形 県	庄 内	全 国	山 形 県	庄 内	
40	636	823	1,045	114.2	114.3	114.3	365	510	666	113.4	115.1	113.4	376	288	945	761	798	945	
41	726	941	1,153	119.8	115.4	123.9	414	587	732	123.2	113.5	123.2	448	327	1,067	862	914	1,067	
42	870	1,037	1,397	136.9	110.8	122.5	510	666	951	136.9	109.3	109.3	520	353	1,300	1,030	1,019	1,300	
43	926	1,143	1,398	136.9	110.8	122.5	527	728	975	136.9	109.3	109.3	599	426	1,318	1,126	1,154	1,318	
44	969	1,190	1,294	144.2	111.1	111.6	529	696	774	144.2	111.1	111.6	721	513	1,271	1,250	1,209	1,271	
41/40																			
42/41																			
43/42																			
44/43																			
44/40																			
43/40																			

8-3表 10a当り米生産費

単位 円・%

		労働費			農具費			肥料費		
		庄内	山形県	全国	庄内	山形県	全国	庄内	山形県	全国
実数	40	14,707	15,645	15,626	4,378	4,303	3,693	4,321	4,408	3,744
	41	15,175	16,623	17,157	4,868	4,634	4,459	4,638	4,823	4,074
	42	17,249	18,471	19,509	5,732	5,381	5,198	4,790	5,137	4,334
	43	18,051	20,377	21,007	6,049	6,038	6,070	5,362	5,517	4,608
	44	18,562	21,513	22,493	6,942	7,354	7,732	5,167	5,841	4,822
指数	40	48.0	52.0	53.5	14.3	14.3	12.6	14.1	14.7	12.8
	41	46.1	51.3	53.4	14.8	14.3	13.9	14.1	14.9	12.7
	42	43.6	47.7	48.4	14.5	13.9	12.9	12.1	13.3	10.8
	43	42.5	46.7	47.2	14.2	13.8	13.6	12.6	12.6	10.4
	44	40.1	44.0	44.6	15.0	15.0	15.3	11.1	12.0	12.6
		防除費			その他			計		
		庄内	山形県	全国	庄内	山形県	全国	庄内	山形県	全国
実数	40	967	383	653	6,285	4,829	5,517	30,658	30,063	29,233
	41	1,070	940	795	7,187	5,352	5,648	32,938	32,392	32,133
	42	1,175	1,039	925	10,646	8,697	10,345	39,592	38,725	40,311
	43	1,370	1,225	983	11,686	10,546	11,874	42,518	43,723	44,542
	44	2,108	1,739	1,234	13,563	12,449	14,138	46,342	48,896	50,419
指数	40	3.2	2.9	2.2	20.5	16.1	18.9	100.0	100.0	100.0
	41	3.3	3.0	2.5	21.8	16.5	17.6	100.0	100.0	100.0
	42	3.0	2.7	2.3	26.8	22.5	25.7	100.0	100.0	100.0
	43	2.9	2.8	2.2	27.5	24.1	26.7	100.0	100.0	100.0
	44	4.6	3.6	2.5	29.3	25.5	28.0	100.0	100.0	100.0

資料 山形農林水産統計年報

8-4表 米10a当り労働時間

単位 時間

	30	35	40	41	42	43	44
庄内			140.0	137.1	135.3	131.6	105.1
山形県	176.6	168.7	154.4	150.0	150.3	145.5	122.3
全国			132.3	132.4	132.7	113.9	

資料 山形農林水産統計年報

付表1 旧市村別経営耕地規模別農家数

単位・戸

	併規 外定	0.1~ 0.3ha	0.3~ 0.5	0.5~ 1.0	1.0~ 1.5	1.5~ 2.0	2.0~ 2.5	2.5~ 3.0	3.0ha 以上	計
酒田	15	113	80	107	66	83	53	48	123	690
新堀	1	40	65	86	47	63	50	49	83	484
広野		41	37	63	44	34	43	35	81	378
袖浦	4	147	152	293	163	126	107	74	140	1,206
東平田		32	51	87	58	54	59	58	56	455
中平田	2	26	28	46	24	33	49	48	185	441
北平田		19	25	57	41	30	37	36	120	365
上田		25	28	42	33	28	30	34	99	319
本楯		32	33	52	40	53	51	71	102	434
南遊佐		27	23	40	30	29	27	29	59	264
西荒瀬		43	50	91	42	39	33	32	75	406
飛鳥		84	63	6						153
計	23	629	635	972	588	572	539	514	1,123	5,595

付表2 旧市村別専業業別農家数 単位 戸

	総数	専業農家				雇用兼業農家				自営兼業農家	
		計	第1種兼業農家	第2種兼業農家	計	恒常的職助	恒常的賃労働	出稼	人夫日雇		
											計
酒田	690	113	577	245	332	577	98	246	13	150	70
新堀	484	71	413	206	207	413	44	131	15	176	47
広野	378	50	328	196	132	328	41	121	27	114	25
袖浦	1,206	160	1,046	497	549	1,046	119	177	348	259	143
東平田	455	63	392	204	188	392	46	78	12	188	68
中平田	441	129	312	215	97	312	31	95	9	152	25
北平田	365	122	243	136	107	243	48	82	5	86	22
上田	319	42	277	172	105	277	37	88	7	112	33
本郷	434	84	350	239	111	350	56	121	11	131	31
南遊佐	264	78	186	103	83	186	26	58	12	68	22
西荒瀬	406	70	336	155	181	336	42	127	21	110	36
飛鳥	153		153	3	150	153	1				152
計	5,595	982	4,613	2,371	2,242	4,613	589	1,324	480	1,540	674

資料 1970年世界農林業センサス

付表3 旧市村別兼業種類別農家数 単位 戸

付表5 旧市村別経営耕地面積 単位 戸・ha

	経営耕地	田		樹園地		畑		
		総面積	農家数	面積	農家数	面積	農家数	面積
酒田	1,044	631	933	15	5	559	107	
新堀	810	483	785	3		387	25	
広野	678	378	632	52	7	333	39	
袖浦	1,685	1,023	830	521	157	1,173	697	
東平田	737	428	670	65	8	387	59	
中平田	1,055	439	1,029	2		367	26	
北平田	756	365	745	5		254	10	
上田	653	318	641	7	1	240	11	
本郷	860	428	797	82	25	403	38	
南遊佐	488	261	443	37	6	249	39	
西荒瀬	651	370	501	147	27	400	123	
飛鳥	46	6	1			153	45	
計	9,463	5,130	8,006	936	236	4,905	1,220	

資料 世界農林業センサス

付表4 旧市村別世帯員数と自家農業従事者数 単位 人

付表6 旧市村別家畜飼養頭羽数 単位 戸・頭・羽

	世帯員数			自家農業従事者数			
	男	女	計	農業だけに従事		兼業にも従事	
				男	女	男	女
酒田	1,732	1,925	3,657	411	644	590	315
新堀	1,259	1,402	2,661	310	560	472	248
広野	1,002	1,050	2,052	240	326	316	190
袖浦	3,100	3,342	6,442	657	1,399	1,043	477
東平田	1,140	1,238	2,381	251	409	399	245
中平田	1,174	1,249	2,423	381	532	309	147
北平田	932	1,043	1,975	312	440	195	90
上田	820	886	1,706	213	346	320	170
本郷	1,140	1,251	2,391	337	513	348	183
南遊佐	665	725	1,390	198	240	168	93
西荒瀬	1,027	1,122	2,149	284	458	336	196
飛鳥	488	471	959	5	87	187	180
計	14,482	15,704	30,186	3,599	5,954	4,683	2,534

資料 1970年世界農林業センサス

	乳用牛		肉用牛		豚				にわとり	
	農家数	頭数	農家数	頭数	総数		うち繁殖豚		農家数	羽数
					農家数	頭数	農家数	頭数		
酒田	22	88	11	11	111	638	34	63	91	10,587
新堀	108	250	23	27	127	705	77	138	87	2,994
広野	33	103	20	23	62	614	26	118	120	1,158
袖浦	42	126	27	60	218	788	90	182	28	1,744
東平田	46	131	86	137	78	817	34	98	128	2,197
中平田	23	71	60	143	109	823	41	93	99	10,876
北平田	2	11	52	97	122	1,698	59	215	110	1,024
上田	9	16	27	29	92	1,411	50	188	116	758
本郷	8	21	58	134	205	3,476	114	372	162	2,869
南遊佐	2	4	12	15	73	584	32	65	97	2,646
西荒瀬	2	7	5	6	127	1,425	40	92	85	22,696
飛鳥										
計	297	828	381	682	1,324	12,979	597	1,624	1,123	59,549

資料 世界農林業センサス

付表7 米品種別作付面積

単位 ha %

	実 数						指 数					
	40	41	42	43	44	45	40	41	42	43	44	45
フジミノリ	4422	6436	5802	4556	3379	1342	5.6	8.2	7.5	5.9	4.4	1.8
ハツニシキ	365.8	185.7	83.3				4.7	2.4	1.0			
さわにしき	441.6	731.5	948.2	907.9	720.9	599.9	5.6	9.4	12.2	11.7	9.3	8.2
チョウカイ	13.1	416.7					6.2					
さわのはな	385.9	3,016.4	308.4	234.2	103.0	97.7	4.9	5.8	3.9	3.2	1.3	1.3
ササニシキ	1,884.7	741.7	3,800.0	3,710.7	4,055.7	4,650.6	23.9	36.8	49.2	47.9	52.0	63.8
でわみのり	775.9	107.9	587.6	634.4	932.4	945.4	9.9	9.5	7.6	8.1	11.9	13.0
ささしぐれ	382.1	419.0	52.1				4.9	1.3	0.7			
オオトリ	1,032.9		181.7	56.1			13.2	5.8	2.3	0.7		
改良信交	93.0						0.1					
農林45号	224.7						2.8					
レイメイ				88.3						1.1		
ギンマサリ	195.6						2.5					
ミヨシ	410.4	183.7	57.4	10.9			5.2	2.3	0.7	0.2		
奥羽237号	324.5	403.9	259.9	134.1			4.1	5.1	3.3	1.7		
たちぼなみ		14.9	251.3	909.4	1,067.1	23.7	0.2	3.2	11.7	13.6	0.3	
でわちから					34.1	238.0					0.5	3.3
羽黒			39.8	33.0					0.5	0.4		
奥羽245号			72.7	90.8					0.9	1.1		
その他	641.8	765.4	246.8	342.3	430.5	455.9	9.3	9.7	3.2	4.4	5.5	6.2
小計	7,621.2	7,630.4	7,564.6	7,607.7	7,681.6	7,145.4	96.9	97.4	97.9	98.2	98.5	97.9
中新もち40号	238.9	188.1	114.5	32.6	14.3		3.0	2.4	1.4	0.4	0.2	
でわのもち			22.4	92.3	83.2	127.9			0.3	1.1	1.0	1.7
おとめもち				6.9	11.1	6.5				0.1	0.1	0.1
その他	7.0	10.9	16.6	10.9	5.0	17.7	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.2
小計	245.9	199.0	160.5	142.7	113.6	152.1	3.1	2.6	2.0	1.8	1.5	2.1
合計	7,867.1	7,829.4	7,725.2	7,750.4	7,795.2	7,297.5	100	100	100	100	100	100

資料 市農水産課

-44-

付表8 旧市村別米10アール当り収量

単位 Kg

		35	40	41	42	43	44	45
酒田	田	526	559	552	614	596	517	606
新堀	堀	530	548	538	608	590	518	597
広野	野	508	530	528	582	552	505	576
袖浦	浦	445	459	447	511	515	450	535
東平田	田	529	556	547	616	598	518	607
中平田	田	536	572	559	628	604	520	608
北平田	田	537	574	564	630	612	522	614
上田	田	535	571	557	627	606	520	610
本郷	郷	544	574	561	630	612	522	614
南遊佐	佐	538	568	555	623	605	518	608
西荒瀬	瀬	509	539	532	596	578	515	590
平均	均	523	552	542	608	589	512	598

資料 農林統計調査事務所

付表9 旧市村別水稻種子更新率

単位 %

		40	45
酒田	田	33.5	52.9
新堀	堀	7.2	20.8
広野	野	8.4	54.4
袖浦	浦	7.7	26.7
東平田	田	13.4	37.1
中平田	田	12.7	37.4
北平田	田	21.5	37.5
上田	田	28.0	48.6
本郷	郷	19.2	40.4
南遊佐	佐	13.4	35.3
西荒瀬	瀬	36.7	76.0
平均	均	17.9	41.2

資料 市農水産課

付表10 農地転用面積

単位 ㎡

計	用途別の農地等の転用実績（農地法45条の許可）										左以外の転用面積	合計
	住宅地敷数	工業用地敷面積	学敷数	校地敷数	公園運動場等用地敷数	圃場用地敷数	鉄道道路等敷数	運水施設敷数	その他の農作物用地敷数	植林		
39	115,142	4,780	10,323	0	46	55,876	8,727	194,894	不明	443,797		
40	135,691	48,697	6,211	0	287	33,061	1,038	224,985		470,261		
41	134,318	78,926	0	10,582	449	32,885	0	287,160		470,261		
42	130,488	65,610	32,882	3,093	173	83,095	0	315,341	128,456	443,797		
43	143,268	65,047	0	13,433	318	110,507	624	333,197	137,064	470,261		
44	115,028	18,573	12,839	567	969	68,273	1,081	217,330	141,442	386,772		
45	74,724	35,570	19,198	0	562	83,460	0	213,514	723,968	937,482		

資料 市農業委員会

付表11 田畑売買価格

(耕作目的10a当り全国農業会館所調べ) 単位 万円

			40		41		42		43		44		45	
			自作地	小作地	自作地	小作地	自作地	小作地	自作地	小作地	自作地	小作地	自作地	小作地
瀬	浦	上	15	10	15	10	20	10	30	—	35	—	40	—
		中	10	5	10	5	15	5	20	—	20	—	30	—
		下	4	2	14	2	12	3	15	—	17	—	20	—
	普	上	35	10	35	10	40	10	80	—	80	—	80	—
		中	24	8	24	8	30	8	70	—	70	—	70	—
		下	20	4	20	4	25	4	60	—	60	—	60	—
本	田	上	15	7.5	15	7	40	8	50	15	50	15	50	15
		中	8	4	10	5	30	6	40	10	40	10	40	10
		下	5	2.5	7	3	20	4	30	8	30	8	30	8
	畑	上	40	10	50	15	60	20	150	30	150	30	150	30
		中	38	8	40	10	50	20	100	25	100	25	100	25
		下	35	7	35	17	40	15	80	20	80	20	80	20
瀬	田	上	27	13.5	35	12	70	12	100	20	100	25	90	25
		中	23	12	32	10	60	10	80	15	80	15	80	15
		下	20	10	30	8	50	8	70	10	70	10	70	10
	畑	上	45	12	60	20	100	40	150	40	150	40	150	40
		中	43	10	50	15	80	30	130	30	130	30	130	30
		下	40	8	45	10	60	20	100	20	100	20	100	20

資料 市農業委員会

付表12 旧市村別人口

	単位 人・%							
	30年	35年	40年	45年	35/30	40/35	45/40	45/35
酒田	55,920	58,904	62,557	64,719	105.3	106.2	108.5	109.9
新堀	4,443	4,221	3,787	3,534	95.0	89.7	93.3	83.7
広野	2,955	2,816	2,535	2,396	95.3	90.0	94.5	85.1
袖浦	9,026	8,757	6,598	6,366	97.0	75.3	96.5	72.7
東平田	3,680	3,411	3,033	2,768	92.7	88.9	91.3	81.1
中平田	3,381	3,184	2,899	2,669	94.2	91.0	92.0	83.8
北平田	2,829	2,623	2,313	2,161	92.7	88.2	93.4	82.4
上田	2,618	2,458	2,190	2,031	93.9	89.1	92.7	82.6
本楯	4,406	4,123	3,605	3,335	93.6	87.4	92.5	80.6
南遊佐	2,782	2,569	2,296	2,152	92.3	89.4	93.7	83.8
西荒瀬	3,449	3,157	2,926	2,834	91.5	92.7	96.7	89.8
飛島	1,246	1,451	1,243	1,107	116.5	85.7	89.1	76.3
計	96,735	97,671	95,982	96,072	101.0	98.3	100.1	98.4

資料 国勢調査

付表13 産業分類別就業人口

	30年				35年				40年				45年			
	男	女	計	構成比	男	女	計	構成比	男	女	計	構成比	男	女	計	構成比
総数	25,368	17,870	43,238	100.0	26,153	18,854	45,007	100.0	26,311	19,270	45,581	100.0	27,940	21,930	49,870	100.0
農業	8,681	9,735	18,416	42.6	7,505	8,381	15,886	35.3	6,197	6,655	12,852	28.2	5,516	6,307	11,823	23.7
林業	84	52	136	0.3	90	71	161	0.4	89	42	131	0.3	74	34	108	0.2
漁業	517	22	539	1.2	688	439	1,127	2.5	637	174	811	1.8	622	44	666	1.4
第一次産業計	9,282	9,809	19,091	44.1	8,283	8,891	17,174	38.2	6,923	6,871	13,794	30.3	6,212	6,385	12,597	25.3
鉱業	295	28	323	0.8	265	42	307	0.7	216	43	259	0.6	117	30	147	0.3
製造業	2,315	313	2,628	6.0	2,684	515	3,199	7.1	3,139	743	3,882	8.5	3,372	786	4,158	8.3
第二次産業計	4,081	919	5,000	11.6	4,359	1,405	5,764	12.8	4,456	2,204	6,660	14.6	4,472	3,147	7,619	15.3
卸売業	6,691	1,260	7,951	18.4	7,308	1,962	9,270	20.6	7,811	2,990	10,801	23.7	7,961	3,963	11,924	23.9
小売業	3,439	3,357	6,796	15.7	3,890	4,122	8,012	17.8	4,230	4,819	9,049	19.8	5,358	5,938	11,296	22.7
金融・保険・不動産	499	226	725	1.7	450	224	674	1.5	522	343	865	1.9	554	399	953	1.9
運輸・通信・公益	2,328	337	2,665	6.2	2,666	431	3,105	6.9	2,931	565	3,496	7.7	3,323	586	3,909	7.8
サービス業	2,192	2,589	4,781	11.1	2,656	3,001	5,657	12.5	2,917	3,438	6,355	13.9	3,641	4,389	8,030	16.1
公務	937	292	1,229	2.8	900	215	1,115	2.5	977	244	1,221	2.7	891	270	1,161	2.3
第三次産業計	9,395	6,801	16,196	37.5	10,562	8,001	18,563	41.2	11,577	9,409	20,986	46.0	13,767	11,582	25,349	50.8

単位 人・%

資料 国勢調査

付表14 市内純生産

単位 千円

	所 得 額			構 成 比			前年対比	
	40年度	41年度	42年度	40年度	41年度	42年度	41/40	42/41
第1次産業	4,377,180	4,917,586	6,280,404	18.2	18.3	19.9	112.3	127.7
農 業	3,852,945	4,215,973	5,734,392	16.0	15.7	18.2	107.4	136.0
林 業	50,935	108,817	100,329	0.2	0.4	0.3	213.7	92.2
水産業	473,308	592,796	445,683	2.0	2.2	1.4	125.2	75.2
第2次産業	7,144,951	7,639,402	7,926,599	29.6	28.4	25.2	106.9	103.8
鉱 業	36,748	40,292	46,283	0.2	0.1	0.2	109.6	119.8
建設業	1,944,117	1,846,749	2,108,039	8.0	6.9	6.7	95.0	114.1
製造業	5,163,726	5,752,361	5,770,277	21.4	21.4	18.3	111.4	100.3
第3次産業	12,577,734	14,310,201	17,301,551	52.2	53.3	54.9	113.8	120.9
卸小売業	4,264,068	4,790,995	6,199,970	17.7	17.8	19.6	112.4	128.4
金融 保険不動産業	1,651,985	1,948,927	2,521,495	6.8	7.3	8.0	118.0	129.3
運輸通信業	1,991,650	2,328,272	2,489,150	8.3	8.7	7.9	116.6	107.1
電 気 ガス水道業	282,122	266,161	353,401	1.1	1.0	1.1	96.3	132.8
サービス業	3,480,636	3,964,149	4,553,064	14.5	14.7	14.5	113.9	114.7
公 務	910,254	1,016,697	1,182,471	3.8	3.8	3.8	112.0	116.3
市内純生産	24,099,505	26,867,189	31,508,554	100.0	100.0	100.0	111.5	117.3

資料 酒田市民所得推計